

様式第7号ア（認定を受けようとする課程を有する大学・学科等における教員養成の目標等に関する書類）

(1) 大学・学科の設置理念

① 大学

平成国際大学(以下、本学)の設置者である学校法人佐藤栄学園は、昭和46年の創設以来、初代理事長の佐藤栄太郎が掲げた「人間是宝」の建学の精神を理想に、「若人の未来を考え、内在する可能性を拓き、常に創造する心と知性を育て、人間性豊かな徳操を養い、広く世界文化経済発展の先覚者としての自覚をもち、平和社会の奉仕に励み、これを実践することを使命」としつつ、初等中等教育から高等教育までの各段階において、その具現化を図るべく埼玉県内に諸学校を設置してきたところである。本学は、その主翼を担う高等教育機関として、平成8年4月、「幅広い教養を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、もって我が国及び国際社会の発展と人類の福祉に寄与しうる人材を育成すること」を目的として、埼玉県の北東部、加須市内に設置された。

設置後の本学は、上記の理念をふまえ、下記の点を重視して教育研究にあたってきた。第1に、佐藤栄学園が文武両道を旨とする学校法人であることから、学生に対して勉学に精励させると同時に、良好な環境のもとで充実した課外活動に打ち込ませることに努めてきた。第2に、立地する埼玉県加須市を中心に、地域社会への貢献、地域社会との連携を強く意識した学校運営に努め、学生の活発な参加を促しながら、各種各層の地域住民を対象とした貢献事業、連携事業を多数実施してきた。本学は、上記のような特性を活かしつつ、大学の設置理念を実現するべく、30年近くにわたって多数の学生を育成し、有為の人材を社会へと輩出しているところであるが、今日、下記の認識のもと、「情報デザイン学部情報デザイン学科」を設置することで、大学設置目的の実現に向けての取り組みを飛躍的に強化していきたいと考えるに至った。

② 学科等(認定を受けようとする学科等のみ)

情報デザイン学部情報デザイン学科(以下、本学部)では、数理・データサイエンス・AIを主な教育内容とし、情報技術の急速な発展と社会のデジタル化(デジタルトランスフォーメーション(DX))に対応できる専門知識・技術と実践力を持つ人材の育成を目的としている。より具体的には、広く産業界や地域社会に起こる様々な課題に対して、データ解析やその活用を通じて、実践的に課題解決に取組み、社会に貢献できる人材の養成である。また特にDX人材の中でも現在最も不足が指摘されている「ビジネスアーキテクト」育成に注力する。

ビジネスアーキテクトとは、「ビジネスや業務の変革を通じて実現したいこと(=目的)を設定したうえで、関係者をコーディネートし、関係者間の協働関係の構築をリードしながら、目的実現に向けたプロセスの一貫した推進を通じて目的を実現する人材」とされている(経済産業省「DX推進スキル標準」の人材類型の定義(令和6年7月改訂版))。

この育成のために本学部では、数理・データサイエンス・AIについて体系的に学んだうえで、実践的課題解決能力養成のために、重点分野として「農業」「環境」「スポーツ・健康情報」「経営・マーケティング」「文化情報」「国際関係」を設定し、それぞれの分野に4~6科目を設定する。学生には、これら6分野の内の何れかを重点的に学修させることとしている。さらに、3年次必修科目として、企業や自治体等で約4カ月の長期インターンシップを行う。この実習は従来行われている「ゲスト受入型研修」ではなく「実践型就労実習」である。

これらの教育課程により、本学部は、将来的に最も必要とされている「ビジネスアーキテクト」として活躍できる人材の育成を目指す。

(2) 教員養成の目標・計画

① 大学

本学は、大学の設置理念に掲げた建学の精神を旨として、その目的を「幅広い教養を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、もって我が国及び国際社会の発展と人類の福祉に寄与しうる人材を育成すること」と

定め、広く社会に貢献する人材の養成を目指すこととしている。こうした理念を実現する一環として、平成 14 年、法学部において、中学校教諭一種免許状(社会)、高等学校教諭一種免許状(公民)、平成 29 年には、スポーツ健康学部において、中学校教諭一種免許状(保健体育)、高等学校教諭一種免許状(保健体育)を取得できる課程を設置し、我が国及び国際社会の発展と人類の福祉に寄与しうる教員の養成を目指すこととした。

本学の教員養成における特徴は、佐藤栄学園の建学の精神「人間是宝」に基づいた教育者養成を行う点にある。これは、人は一人ひとりが宝の原石であり、その原石を磨き上げて文字どおりの宝とするために教育は存在するという理念である。すなわち、本学が育成を目指す教員とは、生徒一人ひとりがそれぞれかけがえのない人生を生きていることを深く認識し、育ってきた環境や立場、国籍・性別などに関わらず生徒個々の人格を尊重し、個性を理解しようとする姿勢を持って、生徒の成長を支援する教育者である。

特に、これからの我が国は、「異次元の少子化」による労働力不足に直面することが予想され、それに伴いこれまで日本で生まれ育っていなかった居住者の増加が見込まれる。そのため、学校教育の現場においても多様な文化的背景を持つ生徒を教育・指導する機会が増加することは必然である。生まれ育った文化や宗教などのバックグラウンドが異なる生徒に対しても、他の生徒と等しくその個性や人格を理解しようとする姿勢は、今後の学校教員により一層求められる要素となると考える。

上記の理念を実現するべく、本学に「教職支援センター」を設置し、教職課程に在籍する学生への各種支援に取り組んできた。具体的には、当該学生に対する履修指導・相談、教育実習及び介護等体験の事前事後指導を含む連絡調整、教員採用試験に向けた学習支援及び情報提供、模擬面接(個人・集団)、模擬授業指導などである。また、ボランティアへの積極的な参加が教員養成においては有用であるとの観点から、大学内外でのボランティア活動(新入学生の研修合宿の補助など)への参加をうながしている。なお、同センターは、教職課程担当の専任教員の他、大学近隣の加須市、久喜市の諸学校での豊富な勤務経験を持つ元中学校長 3 名を特任教授として配置し、きめの細かな指導を担保している。

②学科等(認定を受けようとする学科等のみ)

情報科学の専門知識と教育スキル、及び教育者としての意欲・責任感を有する教員養成を目標とする。

そのために、下記を特色とした高等学校教諭一種免許状(情報)を取得できるカリキュラムを編成する。第1に、「情報数理入門」により数学の基礎概念や公式を理解し、「プログラミング入門」「アルゴリズムとデータ構造」等により情報処理に関する基本的手法を習得する。第2に、「情報ネットワーク」により、ネットワークの原理や基本構造を学ぶとともに、インターネットを支える基礎技術について理解を深める。情報ネットワークに関する知識は、「情報セキュリティ」を学ぶ上で重要な基盤となる。第3に、「デジタルアーカイブ」により、画像処理の基本原則やマルチメディア表現に関する具体例等を学ぶ。これにより、画像処理技術の応用が広範な領域で行われていること、及びその可能性の広さを理解させる。第4に、「機械学習入門」「AI概論」等により、機械学習の基本原則を理解し、生成AIに関する技術的知識や社会的課題を学ぶことにより、これを適切に利用するための問題点について論じる能力を養成する。第5に、「情報と職業」により、企業等における「情報化」「DX化」をどのように進めていくのかについての手法を学んだうえで、「情報セキュリティ」「情報倫理」により、情報を取扱う上での留意点やリスク管理の具体的方法を習得し、さらにはビッグデータ・AIの持つ危険性を認識・理解し、情報に関する高い倫理観を有する人材育成を目指す。

第6に、「情報科指導法Ⅰ」「情報科指導法Ⅱ」より、高等学校教科「情報」における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された教科「情報」の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに、教科「情報」の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。

また、教育実習に関しては、「教育実習事前及び事後指導」において、下記の指導を行う。実習の前年度は、実習目的・実習要件・実習方法等について担当教員が事前指導を行う。模擬授業においては、中学校・高

等学校長、特別支援学校経験者等の外部ゲストを招いて説明会や質問会を設けるなど、教育現場の実情を踏まえた多面的、かつ具体的な指導を行う。実習終了後は、実習を振り返り、実習を体験した高等学校別にグループごとに分かれて、反省点や課題の検討を中心に事後指導を行う。事後指導後は、学校の仕組み等の理解を深めるために、合同での討論を実施する。さらに、4年次の「教職実践演習」の履修を通じて、教育実践に必要な教職教育の総括的な指導を行う。

(3) 認定を受けようとする課程の設置趣旨(学科等ごとに校種・免許教科別に記載)

現在、わが国では他の先進諸国と比べて、DX人材が不足しており、経済成長や地域発展を阻害する要因の一つとなっている。その対策として、高等学校段階から数理・データサイエンス・AIに関する教育を行い、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用するための知識および技能を身に付け、実際に活用する力を養う必要があると考える。そのために本学部では、情報科学の専門知識と教育スキル、及び教育者としての意欲・責任感を有する教員養成を目指す。

具体的には、本学部が設置する教職課程において養成を目指す教員像と教職課程を設置する意義必要性を、以下の3点に示す。

第1に、技術動向の知識を積極的に習得する意欲を有する教員である。

情報技術の世界では技術革新のスピードが極めて速く、生成AIの技術などは数カ月で陳腐化する。情報分野における技術動向について把握し続けることは、情報科教員にとって不可欠である。なぜなら、これまで教えていた原理や概念が、あるときから実社会で適用できなくなる可能性があるからである。情報科教員には、自律的な自己研鑽の姿勢が求められ、その意欲を持つ教員の育成を目指す。

第2に、生徒との双方向のコミュニケーション能力を有する教員である。

情報の授業では、「プログラミング」「アルゴリズム」「データ構造」など、抽象的な内容を理解することが苦手な生徒に対しては、質問の内容をしっかりと聞き、どの部分でつまづいているのかを正確に把握し、わかりやすく説明する能力が求められる。また、図表やグラフ、イラストを活用してわかりやすく説明する工夫も必要である。生徒の言葉を丁寧に聞き、理解して、適切な説明を行う双方向のコミュニケーション能力を持つ教員養成を目指す。

第3に、情報の取扱いに関するリスクを十分理解し、高い倫理観を有する教員である。現代のネット社会においては、情報の取扱いを誤るとSNS等を通じて秘匿すべき情報が瞬時に拡散される危険性がある。また、近年インターネットを利用した違法取引やフィッシング・スパムメールなどのサイバー犯罪等が増加している。さらに、ビッグデータやAIは、適切に運用されなければ社会全体をミスリードする可能性を持つ。これらのリスクを十分理解したうえで適切に情報を取扱う倫理観を有することは、これからの情報科教員の重要な資質となる。生徒に対して情報リテラシーや倫理観を的確に伝え、適切な情報活用の指導を行うことができる教員の養成を目指す。

上記の通り、本学科は、①最新技術動向の知識を積極的に習得し、自己研鑽の姿勢を持つ教員、②生徒との双方向コミュニケーション能力を備えた教員、③情報に関する高い倫理観を持ち、適切な情報管理・指導ができる教員の育成を目指す。

以上

様式第7号イ

I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

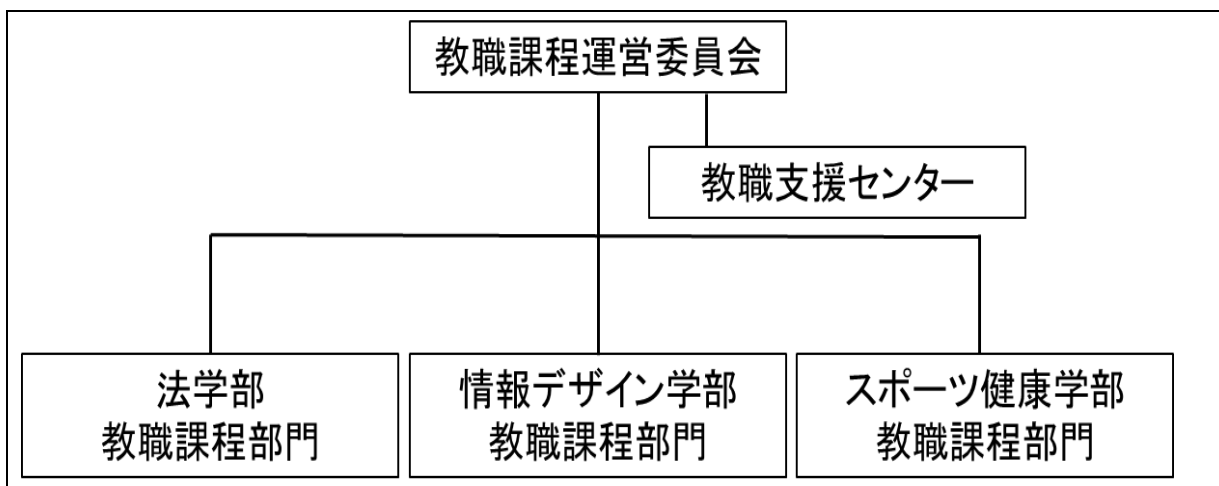
①

組織名称：	平成国際大学教職課程運営委員会
目的：	教職課程の運営
責任者：	平成国際大学教職課程運営委員会委員長
構成員(役職・人数)：	委員長1名、委員若干名
運営方法：	概ね月に1回委員会を開催し、教職課程に関する教育方針、教育課程、授業、試験、成績評価、単位認定、教育実習、介護等体験、その他の学修指導に関する事項を審議している。

②

組織名称：	平成国際大学教職支援センター
目的：	教職課程に在籍する学生、卒業生への各種支援
責任者：	平成国際大学教職支援センター長
構成員(役職・人数)：	センター長1名、主任若干名、顧問若干名
運営方法：	教職課程運営委員会と連携しつつ、センターの構成員が、履修指導、受講状況の確認、教育実習・介護等体験、インターンシップの支援、教員採用試験の過去問題や試験スケジュールなどの情報提供、教職大学院大学への進学を目指す学生への受験指導などを実施している。

(2) (1) で記載した個々の組織の関係図



II. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

(1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

埼玉県内の中学校校長等の経験者3名を特任教授として招き、学校現場の意見聴取等に努めている。加須市・久喜市とは包括的な連携協定を締結しているところであり、教育委員会については、教育実習、インターンシップ等を中心に意見交換を行っている。

様式第7号イ

(2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

①

取組名称：	子ども大学かぞ、子ども大学くき
連携先の調整方法：	県、市、大学、JC等が参画する実行員会においてプログラム等を実施
具体的な内容：	本学教員等が地元小学生高学年を対象に授業を実施。本年度は4つのプログラム （「みんなで楽しもう！なんちゃってボッチャ！」「子どもの権利ってなーに？」等） を実施。本学教職課程履修学生がサポートスタッフとして参加。

②

取組名称：	シニアいきいき大学
連携先の調整方法：	加須市教育委員会生涯学習課と本学地域連携室が適宜、連絡調整
具体的な内容：	本学教員等が加須市在住の60歳以上を対象に授業を実施。本年度は66名が受講。 本学教職課程履修学生がサポートスタッフとして参加。

③

取組名称：	HIU ドリームスタジアム（通称ドリスタ）
連携先の調整方法：	加須市スポーツ少年団サッカー部会等と本学サッカー部が適宜、連絡調整
具体的な内容：	加須市スポーツ少年団サッカー部会等に所属する児童を対象に本学サッカー部が サッカー指導を行う。

④

取組名称：	地元小学校へ陸上指導
連携先の調整方法：	加須市内小学校と本学陸上競技部が適宜、連絡調整
具体的な内容：	加須市内小学校の持久走大会等に参加して陸上指導を行う。

Ⅲ. 教職指導の状況

正規の授業に加えて、教職課程の専任教員及び特任教授が学生に対する個別の教職指導を行っている。また、教職課程担当の事務職員が履修上の相談等に応じている。教職支援センターの教職員を中心として指導、相談の環境を整えるとともに、自習スペース等を提供している。

様式第7号ウ

＜情報デザイン学科＞(認定課程:高等学校一種免許状(情報))

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教育の理念や歴史、思想を学び、教育の本質について深く考察する力を養う。また、教職の意義や教員の役割・職務内容について多角的に理解し、チーム学校運営への対応を含めた実践的な知識を身につける。さらに、コンピュータや情報処理、日本国憲法、外国語コミュニケーション、数理・データ活用・人工知能に関する基礎的な理解を深めるとともに、情報数理に取り組むための数学的思考力を再構築する。これらを踏まえ、教育の社会的意義を考察し、事例研究やグループワーク、ディスカッションを通じて、実践的な学習力と教育現場での対応力を身につけることを目指す。
	後期	教育制度や学校と地域の連携、情報社会の倫理を理解し、教育相談やキャリア教育の理論と方法を学ぶ。プログラミングや数学的思考を基礎から習得し、Pythonを活用した実践的なデータ解析や問題解決能力を養う。情報倫理の概念やサイバー犯罪、個人情報保護について理解し、安全な情報活用のスキルを身につける。教育関係法規を学び、学校安全や地域連携の課題を検討し、実践的な教育活動の計画・運営に取り組むことを目指す。
2年次	前期	生徒の発達や学習の過程を理解し、教育課程や生徒指導の理論を学ぶことで、適切な指導ができる力を養う。また、情報社会における職業やコンピュータ・情報処理、ネットワーク、情報システムの基礎を学ぶ。さらに、情報セキュリティやクラウド技術、プログラミングの知識を深め、AIや生成AIの活用と倫理的課題についても考察する。これらを通じて、情報教育の専門性を高め、実践的な指導力を身につけることを目指す。
	後期	特別支援を必要とする生徒への理解を深め、適切な支援や指導の方法を学ぶ。また、特別活動や総合的な学習の時間の指導法、情報通信技術を活用した教育の理論と実践を習得し、効果的な授業運営ができる力を養う。さらに、プログラミング、デジタルアーカイブの活用について学び、情報処理や教育の方法・技術に関する知識を深める。これらを通じて、多様な学習者に対応できる実践的な指導力を身につけることを目指す。
3年次	前期	教員としての資質・能力を発展させ、実習前に必要な心構えや技術を学ぶ。また、情報科の指導法を習得し資質・能力の発展を促す。さらに、データベースの設計・構築に必要な知識を理解し、実際のシステムを活用する技能を身につけ、大量のデータを効率的に扱う力を養うことを目指す。
	後期	情報システムに関する基礎的な知識を深め、Webプログラミングの技術を習得する。また、前期に修得した情報科の指導法をさらに発展させ、より高度な指導力の向上を図り、資質・能力のさらなる成長を促す。更に、最も重要な必修科目である「教育実習」に向けて、実習を終えた学生などを通じて実習前に必要な心構えや知識・技術を身につけることを目指す。
4年次	通年	情報科の指導法を実践を通じて深め、指導力を養う。教育実習では、実際の授業を振り返り、学習指導や教科指導に関する課題を解決する方法を学ぶ。高等学校教諭を目指す者は、授業観察、研究指導、教材作成補助などの実習を通して、教育的信念、専門知識、研究的態度などを養い、実践的指導力の基礎を培う。また、教育臨床に関する領域として、実臨床的な経験知を共有して教職への自覚と責任をより深めることを目指す。

様式第7号ウ（教諭）

＜情報デザイン学科＞（認定課程：高等学校一種免許状（情報））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教育基礎論	情報数理入門		日本国憲法	
		教職論			コミュニケーション英語Ⅰ	
					情報リテラシー基礎	
					健康とスポーツ	
	後期	教育制度論	データサイエンス入門		コミュニケーション英語Ⅱ	
		教育相談	情報倫理		情報リテラシー応用	
		特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	プログラミング入門			
			情報数理基礎Ⅰ			
			情報数理入門演習			
			アルゴリズムとデータ構造			
		機械学習入門				
2年次	前期	教育心理学	情報セキュリティ			
		教育課程論	情報と職業			
		生徒指導論・進路指導	情報ネットワーク			
			プログラミングⅠ			
			AI概論			

2年次	後期	特別支援教育入門	プログラミングⅡ			
		教育の方法と技術	デジタルアーカイブ			
3年次	前期	教育実習事前及び事後指導	大規模データベース論			
		情報科指導法Ⅰ				
	後期	教育実習事前及び事後指導	Webプログラミング			
		情報科指導法Ⅱ				
4年次	前期	教育実習Ⅱ				
	後期	教職実践演習 (中・高)				